

第2学年国語科学習指導案

単元名 人物のようすや気持ちに気をつけて読もう

教材名 「名前を見てちょうだい」 あまん きみこ作 (東京書籍 小学校2年下)

1 単元について

(1) 児童観

児童は、「読むこと」領域の文学的な文章の読解の学習において、1年生のときに、人物が登場する順序に注意し、場面の様子について想像を広げながら読む学習を行っている。この学習を通して、人物の行動や会話を基に、だれが何をしたかに気をつけて読み取ることができるようになった。

また、2年生の1学期には「お手紙」の学習で、物語の「場面」や「人物」について知り、場面ごとに人物のしたことや気持ちに気をつけて読み、内容の大体をつかむ学習を行っている。この学習を通して、児童は場面について知り、登場人物の行動を中心に出来事の順序に沿って物語を読むことができるようになった。

言語活動としては、読み聞かせを聞いたり、好きな本を選んで好きなところを紹介したりする活動や様子や気持ちを想像して物語を演じる活動を経験している。叙述や挿絵を手掛かりに、場面の様子を短い文章で言い表したり、登場人物の気持ちを想像して吹き出しに書いたりする中で、児童は人物の行動や会話を基に場面ごとに人物の気持ちを読み取ることができるようになった。しかし、人物の気持ちを想像する際に、文章で叙述されていることからかけ離れてしまい、心情を正確に読み取れていない児童もいる。

(2) 教材観

本教材「名前を見てちょうだい」は、お母さんにもらった帽子を中心に展開する物語文である。「強い風がふいてきて、ぼうしをさらっていきました。」という文章が場面転換のきっかけになっており、主人公であるえっちゃんがいろいろな人物(動物)と出会いながら、最後は大男に対峙する場面へとつながっていく場面構成になっている。どこにでもある普通の帽子は母親の手で名前を刺繍されていることで、えっちゃんにとってかけがえのないものになっている。この物語文に出会う子どもたちは、赤い帽子を追いかけていくえっちゃんに共感しながら読み進めていくだろう。

文章中には「名前を見てちょうだい。」「それ、あたしのよ。」等の会話文が各場面で繰り返し使われており、音読劇にして表現させるのにふさわしい作品である。また、表現上の特色として、色彩表現や形容詞・形容動詞が多く使われていて、作品全体に温かさが感じられる教材である。

(3) 指導観

本単元では、音読劇作りを通して、心に残った場面を選んで物語を演じる言語活動を取り入れる。場面の様子や人物の気持ちを想像して読み、会話文に着目して音読劇を作るという言語活動を通して、人物の様子や気持ちを叙述に即して読み取り、想像を広げていくことをねらっていく。会話文の読み方を話し合わせることで、叙述に立ち戻らせ、場面の様子や登場人物の心情に迫らせたい。そのために、次の点に留意して指導を展開する。

第一次では、初発の感想を基に、「一年生におもしろさを伝えるために音読劇をしよう」という大きな学習のゴールを提示し、作品を読み進めるための意欲付けをする。

第二次では、登場人物の会話(せりふ)に着目させ、文章中に書かれている言葉を基に「心配そうに」「困ったように」「あわてたように」「いじわるそうに」など、工夫した読み方を考えさせる。そして、その読み方と理由を話し合わせることで、叙述を基に登場人物の心情を想像させ、吹き出

しに書かせる。

第三次では、音読劇という形で練習・発表の場を設定し、お互いの発表のよいところを伝え合い、成就感や達成感を味わわせたい。

2 単元目標

音読劇作りを通して、場面に気を付けて読み、人物の様子や気持ちを想像することができる。

3 単元の評価規準

ア 国語への 関心・意欲・態度	1 音読する楽しさを知り、人物の様子や気持ちを読み取ることに関心を持ち、音読劇で自分の思いを表現しようとしている。
イ 読む能力	1 登場人物同士のやり取りの様子を音読劇にして発表するという目的をもって、人物の行動や場面の様子に気を付けて読み、人物の様子や気持ちを想像している。 【C読むこと(1)ウ】 2 登場人物が経験したことと自分の経験とを結び付けて考えながら、音声や身体表現による劇を演じている。 【C読むこと(1)オ】 3 互いの音読劇のよさを見付けている。 【C読むこと(1)オ】
ウ 言語についての 知識・理解・技能	1 音節と文字との関係に注意しながら、平仮名や片仮名、漢字を声に出して読んでいる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)】

4 指導と評価の計画（全 15 時間）

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価とその方法
事前	課外	○ ファンタジー作品の読み聞かせを通して、ファンタジー作品に興味をもつ。	・ 教師の読み聞かせ等により、ファンタジー作品に不思議さやおもしろさを感じさせ、教材文を読む意欲付けを行う。	
一	1	○ 教材文を読んで初発の感想を発表し合い、学習の目的をもつ。	・ 教師が全文の読み聞かせを行った後、おもしろかったところ、ふしぎに思ったことなどの感想を交流させる。 ・ 一年生に「おもしろさを伝えるために、人物の気持ちが表れるように音読劇をしよう」と投げかけ、学習の目的をもたせる。	アー1 興味をもって教材文を読んで感想を発表し合い、音読劇に興味・関心をもっている。 〔観察・ワークシート〕
	2	○ 単元全体の学習の見通しをもつ。	・ 音読劇を成功させるために大切なことを押さえる。 ・ 学習の進め方を児童と相談しながら決め、単元全体の学習活動の見通しをもたせる。	アー1 音読劇に興味・関心を持ち、進んで学習の計画を立てようとしている。 〔観察・ワークシート〕

一	3	<p>○ 挿絵を手掛かりに場面分けをし、物語の大まかなあらすじをとらえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵を並べ替えさせることで、人物の登場や場面の転換の順序に意識を向けさせ、物語の大まかなあらすじをとらえさせる。 並べ替えた挿絵を使って、六つの場面に分けさせた後、「だれが」「どうした」を手掛かりに、それぞれの場面の題名を付けさせる。 	<p>イー1 場面を分け、物語の大まかなあらすじをとらえることができる。 〔観察・ワークシート〕</p>
二	4	<p>○ お母さんからもらった帽子が、風にさらわれる場面（一、二の場面）を読み、会話文の音読の工夫について話し合い、えっちゃんの気持ちを想像する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 会話文の音読の工夫とそう考えた理由を話し合わせ、えっちゃんの様子や気持ちを想像させる。 帽子の様子について押さえ、えっちゃんの帽子への思いを想像させ、吹き出しに書かせる。 	<p>イー1 帽子の様子やえっちゃんの行動に気を付けて読み、えっちゃんの様子や気持ちを想像している。 〔観察・ワークシート〕</p>
	5	<p>○ 野原でえっちゃんがきつねと出会う場面（三の場面）を読み、会話文の音読の工夫について話し合い、えっちゃんの気持ちを想像する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 会話文の音読の工夫とそう考えた理由を話し合わせ、えっちゃんの様子や気持ちを想像させる。 えっちゃんの帽子を返して欲しい気持ちや、帽子の名前が変わっていて不思議だと思う気持ちを想像させ、吹き出しに「へんねえ。」の続きを書かせる。 	<p>イー1 きつねの行動に気を付けて読み、えっちゃんの様子や気持ちを想像している。 〔観察・ワークシート〕</p>
	6	<p>○ こがね色の畑でえっちゃんときつねが牛と出会う場面（四の場面）を読み、会話文の音読の工夫について話し合い、えっちゃんときつねの気持ちを想像する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 会話文の音読の工夫とそう考えた理由を話し合わせ、えっちゃんときつねの気持ちを想像させる。 えっちゃんときつねの帽子を返して欲しい気持ちや、帽子の名前が変わっていて不思議だと思う気持ちを想像させ、吹き出しに「へんねえ。」の続きを書かせる。 	<p>イー1 牛の行動に気を付けて読み、えっちゃんときつねの様子や気持ちを想像している。 〔観察・ワークシート〕</p>
	7	<p>○ 七色の林でえっちゃんときつねと牛が大男と出会う場面（五の場面前半）を読み、会話文の音読の工夫について話し合い、きつねと牛の気持ちを想像する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 会話文の音読の工夫とそう考えた理由を話し合わせ、きつねと牛の気持ちを想像させる。 きつねと牛の気持ちを想像させ、吹き出しに「早く帰らなくっちゃね。いそがしくて、いそがしくて。」の続きを書かせる。 	<p>イー1 大男の行動に気を付けて読み、きつねと牛の様子や気持ちを想像している。 〔観察・ワークシート〕</p>

8 本 時	○ えっちゃんが大男に立ち向かう場面（五の場面後半）を読み、会話文の音読の工夫について話し合い、えっちゃんの気持ちを想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会話文の音読の工夫とそう考えた理由を話し合わせ、えっちゃんの気持ちを想像させる。 ・ 吹き出しに、「あたしのぼうしをかえしなさい。」の続きを書かせる。 	<p>イー1 えっちゃんの行動に気を付けて読み、様子や気持ちを想像している。</p> <p>[観察・ワークシート]</p>
9	○ 帽子が戻ってきてえっちゃんが遊びに出かける場面（六の場面）を読み、会話文の音読の工夫について話し合い、えっちゃんの気持ちを想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会話文の音読の工夫とそう考えた理由を話し合わせ、えっちゃんの気持ちを想像させる。 ・ えっちゃんの嬉しい気持ちやほっとした気持ちを想像させ、「ああ、よかった。」の続きを吹き出しに書かせる。 ・ 学習を振り返り、「名前を見てちょうだい」の面白さを話し合う。 	<p>イー1 えっちゃんの行動に気を付けて読み、様子や気持ちを想像している。</p> <p>[観察・ワークシート]</p>
10 11	○ 役割を決めて、えっちゃんが大男に立ち向かう場面を工夫して音読劇の練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで、登場人物別に役割を決め、これまでに学習したことをもとに、練習に取り組みさせる。 ・ グループや全体で見せ合い、ほめ合ったりアドバイスしたりする時間を設け、さらによい音読劇にさせる。 	<p>アー1 物語のおもしろさを伝えようと、音読劇で自分の思いを表現しようとしている。[観察]</p> <p>イー2 登場人物になりきって工夫して音読している。</p> <p>[ワークシート]</p>
12 13 14	○ グループごとに音読劇の練習をした後、一年生に向けて音読劇の発表をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに音読劇の練習をし、交流し合う。 ・ 教室に招待したり、映像として録画したりして、一年生に向けて音読劇を発表する。 	<p>イー2 登場人物になりきって工夫して音読している。</p> <p>イー3 お互いの音読のよさを見付けて伝えている。</p> <p>[観察・ワークシート]</p> <p>ウー1 句読点に気を付けて、平仮名や片仮名、漢字を声に出して読んでいる。[観察]</p>
三 15	○ 単元の学習全体を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音読劇に読み取りが生かされたか、気持ちや様子が伝わるように発表できたか等を振り返らせ、達成感をもたせる。 ・ 発表会のVTRを見て、単元全体を振り返らせる。 	<p>イー3 お互いの音読劇のよさを見付けて伝えている。</p> <p>[ワークシート]</p>

5 本時の指導（8／15）

(1) 目標

- えっちゃんが大男に立ち向かう場面（五の場面後半）を読み、えっちゃんの様子や気持ちをえっちゃんの行動を基に想像することができる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点及び評価
1 前時の学習を想起し、本時のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の学習の振り返りを紹介し、本時のめあてを板書して確認させる。
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> えっちゃんが大男に立ち向かう場面の音読のくふうを考えよう。 </div>	
2 えっちゃんの様子に気を付けながら音読する。 3 「あたしは帰らないわ。だって～」 「食べるなら食べなさい。あたし～」をどのような工夫をして読むか、話し合う。 ① 自分の考えをもつ。 <div data-bbox="207 1075 654 1411" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される音読の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強い口調で ・ えっちゃんになりきって ・ おこった声で ・ 返してほしい気持ちで ・ 身振りを付けて </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の場面を読みのため「えっちゃんの様子を工夫して音読しよう」を意識して読むようにさせる。 ・ 一斉に音読させた後、指名音読させる。
② ペアで伝え合う。 ③ 全体で話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ えっちゃんの行動に線を引かせ、そこから分かる様子や気持ちを書き込ませる。 ・ 音読の工夫を考えさせ、実際に声に出して読ませる。
<div data-bbox="151 1556 786 1937" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【着目させたい叙述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ けれども、えっちゃんはおかえりませんでした。 ・ むねをはって、大男をきりりと見上げて～ ・ 湯気がもうもうと～ ・ ぐわあんと大きく～ ・ また、ぐわあんと大きく～ ・ 大男とおなじ大きさに～ ・ たたみのような手のひらをまっすぐのばして </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二人組で向かい合わせ、自分の工夫した読み方で音読させた後、その理由を伝え合わせる。 ・ 出された読み方の工夫の部分は、応用紙に書いておいた教材文の中に線を引く。また、児童から出された様子や気持ちを書き込んでいく。 ・ えっちゃんは大男のことを「怖い」のか「怖くない」のかを考えさせることで、母親や帽子に対しての強い思いを読み取らせたい。

<p>4 「あたしのぼうしをかえしなさい。」に続くえっちゃんの手紙を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話し合ったことを基にえっちゃんの手紙を想像してワークシートに書かせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【評価】 叙述を根拠にして、えっちゃんの手紙や帽子に対する強い思いを吹き出しに書いている。 [ワークシートの記述]</p> </div>
<p>5 えっちゃんになりきって音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> えっちゃんの手紙を考えながら、会話文の音読をするように促す。
<p>6 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの自己評価欄に記入させ、次時は六の場面の学習をすることを確認する。